

「娘への暴力をやめられない」。児童虐待に悩む親の支援団体「サークル・ダルメシアン」（東京）に今年10月、電話が入った。相手は30代女性。か細い声でそう告白した。代表の岡田ユキさん（48）は話を聞いた後で「親から暴力を受けたことはない？」と尋ねた。女性は絶句した。「痛みを抱え続けて苦しかったでしょう。私もそうだったから」と。

岡田さんは1

991年に離婚した後、東京都内のアパートで連日、小学2年の息子をどなり、殴ったり、けつたりするようになつた。テレビを消さない、頼んだ買ひ物の品を間違える、といつたささいな」ことが理由だった。「スイッチが入ると抑えられなかつた」。生活のため昼夜を問わず働き、疲れがたまっていた。

息子が小学3年になつた頃、突然、自分の幼い頃の記憶がよみがえつた。「親とともに、娘への虐待を告白した女性に同じことをしている」。理由も

96年、ダルメシアンを設立した。「虐待経験者や専門家が、虐待をやめるヒントを教えることが大切」と感じ、自分の体験を基に電話などで相談に応じている。

「何で手を上げたのか、気持ちを子どもに伝えてみて」。保健所や市役所へ相談に行つたが、「ああしろ、こうしろと言つて」。息子が小学3年になつた

性。か細い声でそう告白した。代表の岡田ユキさん（48）は話を聞いた後で「親から暴力を受けたことはない？」と尋ねた。女性は絶句した。「痛みを抱え続けて苦しかったでしょう。私もそうだったから」と。

岡田さんは1991年に離婚した後、東京都内のアパートで連日、小学2年の息子をどなり、殴ったり、けつたりするようになつた。テレビを消さない、頼んだ買ひ物の品を間違える、といつたささいな」ことが理由だった。「スイッチが入ると抑えられなかつた」。生活のため昼夜を問わず働き、疲れがたまっていた。

息子が小学3年になつた頃、突然、自分の幼い頃の記憶がよみがえつた。「親とともに、娘への虐待を告白した女性に同じことをしている」。理由も

96年、ダルメシアンを設立した。「虐待経験者や専門家が、虐待をやめるヒントを教えることが大切」と感じ、自分の体験を基に電話などで相談に応じている。

「何で手を上げたのか、気持ちを子どもに伝えてみて」。保健所や市役所へ相談に行つたが、「ああしろ、こうしろと言つて」。息子が小学3年になつた

## 届かぬ 叫び

4

「親のまねはしない」と誓い、それまでの自分の行為を母親に「殺してやりたい」とまで言われた。

謝ると、息子は号泣した。その後も手を上げてしまふことはあつたが、その度に理由を説明して「お母さんも悪かったよ」と言つて電話を切つた。

\*  
「どうして、あんたはダメなの」「いつか捨てるやる」千葉県内の40代の母親は、今は小学6年になつた長男が幼稚園に入った頃、感情的な言葉で叱りつけるようになつた。

「言つた途端に自己嫌悪。ダメな親だなって」。保健所合、自分の感情がコントロールできなくなると、近くのフ

分からずたたかれ、泣きやまないと柱に縛り付けられた。母親に「殺してやりたい」とまで言われた。

「親のまねはしない」と誓い、それまでの自分の行為を母親に「殺してやりたい」とまで言われた。

謝ると、息子は号泣した。その後も手を上げてしまふことはあつたが、その度に理由を説明して「お母さんも悪かったよ」と言つて電話を切つた。

\*  
「どうして、あんたはダメなの」「いつか捨てるやる」千葉県内の40代の母親は、今は小学6年になつた長男が幼稚園に入った頃、感情的な言葉で叱りつけるようになつた。

「言つた途端に自己嫌悪。ダメな親だなって」。保健所合、自分の感情がコントロールできなくなると、近くのフ

# 虐待やめるヒント

相談者の悩みに耳を傾ける岡田さん（9日、東京都立川市の福祉施設）



アミニリーレストランでノートを広げる。「自分の感情を書き込むことで、気持ちを外に出してきた」

小学1年の息子が幼かつた頃、遊び疲れて抱っこをせがむと、尻をたたいた。道ばたで泣いて座り込むと、そのまま放つておいた。怒ると、息子は「ビック」と体を震わせるようになった。

「ただ、顔を見て笑うといいんだよ」。ノートの中の一文だ。「私のした事の程度は軽くない。ただ言えば良かつたのに」。そう思い返した。

才村純・関西学院大教授（児童福祉論）は「虐待から抜け出すには、まずは誰かに相談する」ことが有効だ。カウンセリングや、行政、民間の窓口に相談することで、自分を見つめ直すことができる。今

は虐待の発見が重視されるが、虐待しないための情報が、親たちにもっと周知される必要もある」と話している。

関東地方の30代の母親の場

合、自分の感情がコントローラーできなくなると、近くのフ

ご意見・ご感想をお寄せ下さい。さて先ほどのページの右下にあります。